

## 編集後記

編集作業を通じて多くの方々に大変お世話になりました。テーマレクチャーだけでなく『哲学の探求』へ寄稿して下さった池田先生、植村先生はじめ、原稿を投稿いただいた皆様に感謝します。また、編集協力者の方々にも感謝します。

今回私は運営委員に初めて参加した年であり、ちゃんと仕事を遂行できるか考えてもしょーがないやととりあえず突っ走ってみた感しかありません。編集の仕事を通じて初めて知ることも多く、執筆者、編集協力者、そして運営委員の皆様から多くのことを学びました。私の力量不足と不手際で、ご協力いただいた方々の負担が大きくなってしまい、申し訳ありません。

同じく編集担当の佐竹さんには細かいことやちょっと調べればわかりそうなことでもつい気軽に尋ねて相談してしまい、ご負担をおかけしました。佐竹さんの気さくで生真面目な応答に大変助けられました。ありがとうございました。

修士・博士課程在籍者向けの査読付き雑誌が創刊される中、『哲学の探求』、若手フォーラム自体の立ち位置や果たせる役割が大きく変わる時期に差し掛かっているのではないかと、思います。運営委員同士で活発な議論をしながら、残り一年の任期中で、私がどのような仕事を果たせるかわかりませんが、できる限り良いものになるよう尽力します。

最後に、ご協力いただいた皆様に重ねて感謝いたします。当フォーラムが有志の力で成り立っていることの素晴らしさと大変さを理解しました。本当に、ありがとうございました。

『哲学の探求』編集担当 過能洋平

今年も、多くの方々のご協力のおかげで、『哲学の探求』を公開することができました。まずは何より、今回の編集作業にご協力いただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。また、みなさんの多大なご協力にもかかわらず、当初の予定より公開が遅くなってしまったことを、ここでお詫びいたします。

私自身は、昨年より、2年間連続して編集担当をしていることになりましたが、この間に、『哲学の探求』は大きく変わろうとしています。昨年度の編集作業で、複数人の編集協力者の方々から、「校正作業における論文の内容的側面への指摘を許容すべきだ」という旨のご意見をいただきました。これをうけ、昨年の全体会にて、参加者のみなさんのご意見をおうかがいしたところ、上の見解に対する賛成意見が多数でしたので、今年の全体会で、修正した編集方針とスケジュールを編集担当からご提案するというお約束をするにいたしました。その後、編集担当を含む運営委員全体で議論を重ね、結果として、上記の点だけでなく、字数制限、原稿締切の日程など、さまざまな点について、編集方針を大幅に見直すことになりました。

思えば、今回の変革は、先の編集協力者の方々からのご意見に始まり、全体会での議論、そして、運営委員会での議論で出た意見など、さまざまな意見を汲み取って、実現されようとしています。去年の全体会でもあったように、「『哲学の探求』の編集作業が内容への指摘を許容すべきか」という問いは、本誌そのものの存在意義への問いにつながるものであり、私自身も、編集担当の2年目においては、このことについてとても真剣に考えてきました。

今となつては、まさに、関係するさまざまな人々の意見を汲み取って変化していくということそのものが、本誌の最大の特徴であり、その存在意義にもつながるものなのではないかと思っております。『哲学の探求』においては、書き手、読み手、運営側すべての意見が、同等の重みをもって、『哲学の探求』のあり方に影響を与えます。若手研究者のための研究発表の場がどんどん増えているここ数年の状況にあって、本誌がもつ柔軟性は、他誌との（生産的な）差別化に大きく寄与するのではないかと考えております。今後も、編集担当とは異なる立場から、『哲学の探求』をより良いものにできるよう、協力していきたいらと思っております。

最後に、任期を終えてからも、さまざまな形で編集担当を助けてくださっ

た、前編集担当の丸山さんと、私のずぼらな一面を見通して（？）明らかに私よりも多くの仕事をこなしてくださったもう1人の編集担当の過能さんに、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

『哲学の探求』編集担当 佐竹佑介